

文章番号	全体-36
版番号	初版
制定日	R2.3.25
改正日	R2.3.25

令和2年度 事業計画書

社会福祉法人総合施設
美吉野園

承認	確認	作成
		
R2.3.25	R2.3.15	R2.3.1

社会福祉法人 総合施設美吉野園

品質方針

総合的な福祉サービスの質向上活動の展開により、ご利用者様・ご家族の期待とニーズに応える福祉サービスを実施するために、社会福祉法人総合施設美吉野園の経営理念を品質方針として定める。

基本理念

- ◇ ご利用者 に 安らぎ と 幸せ を
- ◇ 職 員 は 真 心 と 向 上 を

法人指針

- 目指すもの
 - *社会貢献、地域貢献
 - *より良き運営
 - *グローバルな感覚
- 大切にすること
 - *職員 多様性を尊重し、成長を支援します。
 - *ご利用者 かけがえのないパートナーになります。家族意識を持って親切に誠意を尽くします。
 - *サービス技術 常にスキルアップを目指します。
 - *サービス品質 常に向上を目指します。

行動指針

- 常に社会環境に目を向け、良き社会人として行動します。
- ご利用者の立場に立って誠意を尽くします。
- 現場、現実を直視し、ご利用者の安全を守ります。
- チャレンジ 高い目標を掲げ、達成に向けて粘り強く行動します。
- スピード対応 目標に向かって迅速に、臨機応変に行動します。
連絡は素早く、報・連・相を大切に。
- チームワークを大切 組織を超えて目的を共有します。

行動規範

- 人権尊重
- 法令遵守
- 公平・公正
- 機密の保持
- 権限・責任一致の原則
- 業務上の立場を私的に利用しません。

事業方針

- 自己革新により、ご利用者により良いサービスを提供します。
- ソリューション（解決力）を高め、地域コミュニティを大切にします。
- 各セクション連携を深め、地域に密着した事業展開を行います。

【法人の部】

1. 基本的な考え方

社会の人口動態を見ると、2025年に向けて団塊の世代を中心に高齢者人口が急速に増加した後、その増加が緩やかになる事が推計されている。又、大都市とその郊外では高齢者が増加する傾向にある一方で、地方で高齢者が増加せず、減少に転じる地域も見られ、さらに、担い手となる生産年齢人口の減少が2025年以降加速していく。国では、2040年を見据えながら、各世代にわたるリスクをどのように支えあっていくか、「全世代型社会保障制度」の構築が進められている。

法人としては、生産年齢人口が減少し、労働力需要が供給を超える状況の中で、質の高い福祉サービスを提供し続けるためには、マンパワーの持続性を確保していくと共に、医療福祉・サービスの生産性向上を図っていかなければならない。このため、「人材」というキーワードは欠かせない事だと捉えている。生産性向上や質の高い福祉サービスを担保するという観点に加え、ご利用者が安心してサービスを利用し続ける事が出来るよう「経営の継続性・安定性」に取り組む事が必要だと考える。

また、社会的孤立、貧困、ダブルケアや8050問題など将来の社会保障の仕組みのみでは十分な対応が難しい課題が顕在化している。

地域共生社会の実現に向けて、地域の様々な生活・福祉課題に対し、長い歴史の中で培ってきたノウハウ、専門性をつなぎ合わせ、分野を越えて包括的に取組まなければならない。

2. 基本方針

法人は、歴史と伝統を携えて新たなステージへ踏み出した。

法人理念を強く意識し、気質・気風を高め、高いレベルで質の高いサービスを維持し、次世代の美吉野園に繋げなければならない。

このため、施設単位で方針・目標を定め、理念に基づき、具体的な数値目標を明確化し、職員一丸となって充実感が得られるよう業務を遂行する。

能役者世阿弥の言葉に「時に用をもて花と知るべし」という言葉がある。あらゆることは時機を得ているかどうか。「時」との相対的な関係で決まる。今がどのような「時」か、それに適した判断を行い、行動をとる事が重要。

そのためには、法人理念を大切に安心・安全な介護・看護・支援を充実させ、福祉従事者として、ご利用者の幸せを考えるには、先ず、自らが「笑顔」いっぱいになる事が必要である。つまり、人を幸せにするには自分自身が幸せを感じる事である。

本年度の keyword : 『職員皆で花を咲かせよう』 『準備力』

3. 事業の重点事項

(1) 人材確保に向けて

ハローワークとの密接な連携や実習生の受け入れ、職場体験等を積極的に進める。また、人材定着のための取組みについては、新規採用職員が安心して働き続けられるよう教育期間の設定や、一人で業務に入る時期とその見極めについての視点の標準化を図り、フォローアップ研修等を充実させ、業務内容と管理体制の見直しを行う。

(2) 働き方改革関連法への対応

働く方々がそれぞれの事情に応じた多様な働き方を選択できる社会を実現する「働き方改革」を総合的に推進するため、長時間労働の是正、多様で柔軟な働き方の実現、雇用形態にかかわらず公正な待遇の確保等が進められている。規程の見直しにより、働き甲斐のある魅力ある職場作りを目指す。

(3) 地域共生社会への取組み

人口動態の変化に加え、血縁、地縁といった共同体機能の脆弱化により、子育てや介護、生活困窮など、福祉ニーズがますます多様化・複雑化している。こうした状況に対し、社会福祉法人が、今後も、地域における良質かつ適切な福祉サービスを提供し、高まる地域の期待や役割などに応えていくため、行政並びに各種団体との円滑な連携・共同化の環境整備を目指す。

(4) 地域医療構想への取組み

今後ますますニーズが高まってくる訪問看護等の医療系サービスと診療所機能の一層の充実、地域医療機関との連携を図り、既存の介護サービスと一体的となった在宅での看取りまでも視野に入れたサービス提供体制の確立を目指す。

(5) 人事考課制度・職能基準の改定

制度運用から10年が経過し、時代にそぐわない制度が形骸化し、業務評価がルーティーン業務となっている。安定的な人材の採用と定着に向けた法人全体のマネジメントレベル向上と法人の経営理念の達成に向けて、意思統一を図り公平処遇を実現する人事制度の再構築を図る。

また、キャリアパスに連動した役割連動型賃金制度の見直しの検討を行う。

4. 事業内容

(1) 吉野学園災害復旧工事について

平成 29 年 10 月、台風 21 号により、吉野学園東側斜面が崩落しご利用者の方々が避難を余儀なくされた。現在は吉野学園にて、危険箇所の 1/3 を閉鎖し、制限された中で不自由な生活を行っている。平成 31 年に入り復旧工事が実施され、令和 2 年 8 月に完成予定である。

吉野学園としては復旧工事期間中、ご利用者の安全を優先的に考え、職員が危機意識を持ち、事故の無いよう万全の体制を整える。

(2) 本館空調機器更新工事

経年劣化している空調機器（ファンコイル・エアコン）を更新することで、ご利用者が安らげる環境、職員が働きやすい職場づくりを整え、年間 7,521kwh・130,865 円削減を目標に省エネ・省コスト・省 CO2 の実現に努める。

内容	数量	費用	1 台あたり
老人寮 4 階ファンコイル更新	52 台	21,450,000 円	412,500 円
老人寮 3 階ファンコイル更新	52 台	21,450,000 円	412,500 円
老人寮 2 階ファンコイル更新	51 台	21,450,000 円	420,588 円
特養寮 3 階ファンコイル更新	60 台	20,900,000 円	348,333 円
特養寮 2 階ファンコイル更新	60 台	20,900,000 円	348,333 円
2 階～4 階管理棟・ステーション他エアコン更新 (室外機含む)	52 台	35,000,000 円	673,076 円
合計	327 台	141,150,000 円	

(3) 特養寮プライバシー保護並びに自立支援に向けた浴室改修工事

特養寮では、ご利用者のプライバシー保護並びに自立支援の観点から、浴室及び脱衣室に間仕切り、手すりを導入し、他者の目を気にすることなく、ゆったりと快適に入浴していただける環境づくりに努め、サービスの質の向上につなげる。

内容	数量	費用
3 階浴室改修	1 室	3,900,000 円

(4) 本館防犯対策強化事業

外部からの不審者の侵入に対する危機管理、監視性の確保の観点から、安全対策を強化するため防犯対策強化事業として屋内用防犯カメラの増設を行う。

内容	数量	費用
屋内用防犯カメラ	10 台	1,300,000 円
モニター	2 台	

(5) 特養寮・大淀園ノーリフティング推進機器導入について

ノーリフティングポリシーに基づいた、持ち上げない・抱え上げない・引き摺らない介護を行い、ご利用者が心安らぐ暮らしやすい環境づくりを図り、より良いサービスの向上につなげる。

拠点	内容	数量	費用
特養寮	移乗用ボード（アコーディオン形状）	6 枚	382,800 円
	移乗用ボード（長方形型 L）	11 枚	350,900 円
	移乗用ボード（三角型）	13 枚	326,040 円
	移乗用ボード（長方形型 M）	3 枚	75,900 円
	L 字柵	10 台	275,000 円
	スライディングシート	3 枚	18,150 円
	計		1,428,790 円

大淀園	立位補助リフト	8 台	2,539,520 円
	低床ベッド（置き畳の部屋）	4 台	1,328,000 円
	スライディングボード（ブーメラン型）	5 枚	76,750 円
	スライディンググローブ	8 枚	16,000 円
	計		3,960,270 円
合計			5,389,060 円

【施設の部】

1. 事務管理

(1) 給与

令和 2 年度において人事考課及び勤務成績に基づき定期昇給を実施する。例年通り 55 歳以上の者については、昇給は行わないものとする。

また、4 月より法施行の「同一労働同一賃金」に伴い、給与体制の見直しを行う。

(2) サービス利用に関するアンケートの実施

年 1 回(9 月) ご利用者・ご家族へ「ご利用者満足度アンケート調査」を実施する。

ご利用者・ご家族の意見をより良いサービス提供につなげ、マネジメントサイクル（PDC A サイクル）を確立し、サービスの質の向上を図る。

(3) 監査（内部監査、外部監査）及び審査

【内部監査】

品質マネジメントシステムにより、ISO9001：2015 の要求事項、並びに法人が規定した要求事項に適合しているか、又、効果的に実施され、維持されているか否かを明確にするため、効果的な内部監査を年2回（9月・3月）実施する。

*内部監査委員による監査

実施月	監査内容	対象施設
令和2年9月	・継続して介護・福祉サービスの質を向上できるしくみを構築しているかの確認。 ・問題を事前に把握し、未然に解決を図る。	全施設
令和3年3月		

*福祉サービスの第三者評価 施設内自己点検

実施月	監査内容	対象施設
令和2年9月	第三者評価基準に基づき自己点検	全施設

【外部監査、審査】

外部監査、審査により、経営組織のガバナンスの強化、内部統制の構築を図る。

*会計監査（会計監査人：清友監査法人による）

実施月	監査内容	監査人(人数)
令和2年4月	会計監査（実査・残高確認他）	公認会計士 1名
令和2年5月	会計監査（期末残高）	公認会計士 4名
令和2年5月	会計監査（期末残高）	公認会計士 5名
令和2年5月	会計監査（表示チェック／結果報告）	公認会計士 5名
令和2年11月	会計監査（内部統制の整備状況）	公認会計士 3名
令和2年11月	会計監査（内部統制の運用状況）	公認会計士 3名
令和3年3月	会計監査（期中取引記録）	公認会計士 3名
令和3年3月	会計監査（期中取引記録）	公認会計士 3名

*監事監査

実施月	監査内容	監査人(人数)
令和2年5月	法人の業務執行の状況及び法人の財産の状況〔計算書類(貸借対照表、資金収支計算書及び事業活動計算書)並びに附属明細書及び財産目録〕の監査	監事 2名

* 奈良県指導監査 (奈良県福祉医療部 監査指導室による)

実施回数	監査内容	対象施設
毎年実施 (時期は未定)	社会福祉施設に対する実地監査	吉野学園 (障害児施設)
1回 (2年~4年) (時期は未定)	社会福祉施設に対する実地監査または指導監査	全施設

* I S Oサーベイランス審査：継続審査 (BSI グループジャパン(株))

実施月	監査内容	対象施設
令和3年4月	法人のマネジメントシステムが継続的に規格要求事項に適合しているか、有効に維持しているかの検証審査	ISO 事務局 特 養 寮 美吉野園診療所 わくさぼとPono

* 「奈良県福祉・介護事業所認証制度」認証審査 (奈良県福祉医療部 長寿・福祉人材確保対策課による)

監査内容	対象施設
「奈良県福祉・介護事業所認証制度」認証取得に伴う審査 認証期限 [令和2年4月~令和5年3月]	全施設 (毎年：現況報告提出)

[資金収支予算計画]

平成28年度より会計監査人設置。内部統制を前提として財務状態、経営成績及びキャッシュフローの状況全て重要な点においての監査を実施し、今後もマネジメントサイクル(PDCAサイクル)を実行しながら常に先を見た経営を図る。
 経営管理下においては、大規模修繕等将来のリスクに対する資金計画を立て「建物建替計画」「美吉野園建物等維持保全計画」に基づき、継続性・計画性の両方が備わった安定した経営を図り、消費量においてエコロジー活動に努める。【別紙⑦P.73～77参照】

1. 令和2年度 資金収支予算書

(自)令和2年4月1日 (至)令和3年3月31日

単位:千円

勘定科目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	本年度拠点別予算額内訳							備考	
				本部拠点区分	老人寮拠点区分	特養寮拠点区分	吉野学園拠点区分	わーくさぼーとPono(吉野学園拠点)	大淀園拠点区分	インクルーシブケアセンター拠点区分		
収入												
事業活動収入計(1)	2,230,826	2,180,399	50,427	2,963	299,327	879,205	261,921	98,116	585,207	104,087	介護保険事業収入 障害福祉サービス等事業収入 老人福祉事業収入 就労支援事業収入 等	
支出												
事業活動支出計(2)	2,146,545	2,020,035	126,510	14,805	289,642	836,767	251,135	95,389	559,406	99,401	人件費支出 事業費支出 事務費支出 等	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	84,281	160,364	△76,083	△11,842	9,685	42,438	10,786	2,727	25,801	4,686		
収入												
施設整備等収入計(4)	0	49,998	△49,998	0	0	0	0	0	0	0		
支出												
施設整備等支出計(5)	234,204	222,558	11,646	3,000	79,461	115,276	2,251	2,721	31,320	175	固定資産取得支出 設備資金借入金元金償還支出 ファイナンス・業務の返済支出	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△234,204	△172,560	△61,644	△3,000	△79,461	△115,276	△2,251	△2,721	△31,320	△175		
収入												
その他の活動収入計(7)	198,328	118,425	79,903	15,097	78,681	86,800	0	0	17,750	0	積立資産取崩収入 (老人寮・特養寮・大淀園) 拠点区分間繰入金収入	
支出												
その他の活動支出計(8)	28,570	142,476	△113,906	0	309	12,168	5,581	6	10,505	1	積立資産支出 拠点区分間繰入金支出	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	169,758	△24,051	193,809	15,097	78,372	74,632	△5,581	△6	7,245	△1		
予備費(10)	19,835	13,753	6,082	255	8,596	1,794	2,954	0	1,726	4,510		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	0	△50,000	50,000	0	0	0	0	0	0	0		
前期末支払資金残高(12)	735,324	735,324	0	51,839	79,018	278,444	81,315	28,167	184,282	32,259		
当期末支払資金残高(11)+(12)	735,324	685,324	50,000	51,839	79,018	278,444	81,315	28,167	184,282	32,259		

令和2年度 資金収支予算額 施設別状況

単位:万円

